

生涯教育と地域社会

育成会長 秋田 安弘

仕事で年に何度も欧米諸国を歩き回る、諸外国のボーイスカウト活動にふれる機会があって「うらやましいなあ」と感じることが多い。どの国でもボーイスカウトは、地域社会の中心的な活動だ。指導者もスカウトの父兄に限らず、いろいろな人たちがボランティアとしてそれぞれの能力を提供してくれる。地域の企業も活動資金の援助を惜しまない。会社の受け付けに「××会社の援助に感謝して、ボーイスカウト〇〇団」といった感謝状を額に入れて掛けてあるのをよく見かける。また場所によってはボーイスカウト会館××町〇〇団といった建物がある。

地域の青少年をよい社会人となるように育てる環境が整っている。そして「良い社会人」の定義もしっかり理解されている。例えばアメリカでは「アメリカ国民として、また世界の一員として倫理的に正しい判断と積極的に社会に貢献すること」をビーバー隊の年齢から教える。特に最近では指導者層まで含めて、非常に複雑に変化する社会に対応していくための精神的な指導までである。こういったボーイスカウト活動は、地域社会の生涯教育にまで発展している。つまりボーイスカウト活動を生涯続け、心と体を鍛えて社会人としての教養を高めて行こうというわけだ。これも社会全体が協力してくれるからこそできること。NASAはあらゆる年齢に応じた情報と技術を提供してくれるし、大学、産業界、一般の人々も協力を惜しまない。

最近インターネットが豊富な情報を提供してくれるので、スカウト活動を生涯教育につなげることが易しくなった。また地域や国の壁を乗り越えて、世界規模のスカウト活動に広がり始めた。南北アメリカ、ヨーロッパ、アジア、大洋州のスカウトがインターネットで繰り広げる「フォーラム」や「チャット」は世界中の人々が参加して共通の話題を話し合う。世界のスカウト活動のスケジュールや報告を読むこともできるし、遊びやイベント作りの参考になるものもたくさん提供されている。

インターネットのスカウト活動には、日本が全く参加していない。世界の中で日本だけが、孤立状態にあるようで極めて残念だ。20周年を記念して、スカウト達に横浜100団ホームページを立ち上げてもらいたい。幸い100団の本拠地にデジタル・タウン金沢が発足したので、ホームページの開設には最高の場所。金沢地区で活動するボーイスカウト100団に地域ぐるみで参加してもらえるよう努力していきたいと思う。